

森戸川上流域の水生生物調査結果

調査日時 : 2004年10月2日 12:00~17:00
 気温 : 26°C
 調査地 : 神奈川県三浦郡葉山町森戸川黄金橋より砂防堰堤まで
 天候 : 晴れ
 水温 : 19~21.7°C

森戸川の概要

河川延長 L=2000m 流域面積 6.97km² (降雨等が流入する面積)
 神奈川県横須賀土木事務所河川砂防課より

調査者 : 武蔵工業大学 田中章研究室
 久喜伸晃 小俣宏 新井聖司 伊藤喬徳
 佐藤勇 佐藤勘才 鈴木浩晃 田中亨



写真1 アブラハヤ
 主に川の上流から中流にかけて生息している。川の淀みや淵の水底に近いところに住み、底に住む生物、川に落ちた虫などを食べる。森戸川ではシマヨシノボリと並んで代表種である。
 (鈴木 1987)



写真2 シマヨシノボリ
 生息域は、北海道を除く日本全国におよぶ。森戸川における魚類の代表種。森戸川におけるヨシノボリ類の個体数ではシマヨシノボリが95%、クロヨシノボリが5%とシマヨシノボリが優占していた。
 (斉藤・林 1999)



写真3 ヌカエビ
 河川の上流から下流、湖沼、用水路など、色々な場所で最も普通に見られるエビである。水草や抽水植物など障害物の多い、流れの緩やかな場所を好んで生活している。汚濁の進んだ水域や外来魚の多い水域では見ることができない。水域の健康度の指標になると思われる。(Web1)



写真4 サワガニ
 本州、四国で唯一の純淡水産のカニ。生息地によって色彩に変異があり、赤褐色、濃紫褐色、淡青白色などが普通。食用になるが、熱処理が必要(三宅 1982)。捕獲場所以外にも多くの場所で確認することができた。この個体は淡青白色。

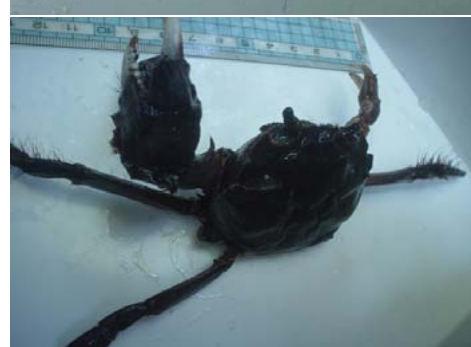


写真5 モクズガニ
 はさみや足に長い毛が密生していて暗褐色をしている。夜行性のため、昼間はあまり見られない。日本全土に分布し、陸水系で成長し、秋に産卵のため海へ降りる(三宅 1982)。中流域調査に引き続き捕獲することができた。



写真6 図⑩地点
 森戸川の上流域では、川の周りにたくさんの水生植物が生い茂っていた。数カ所で写真6のように土砂崩れによると思われる倒木が川にかかっていた。今回の調査を進行していく上で、多くの場所でこのような倒木を見ることができ、源流としての景観を感じる事ができた。

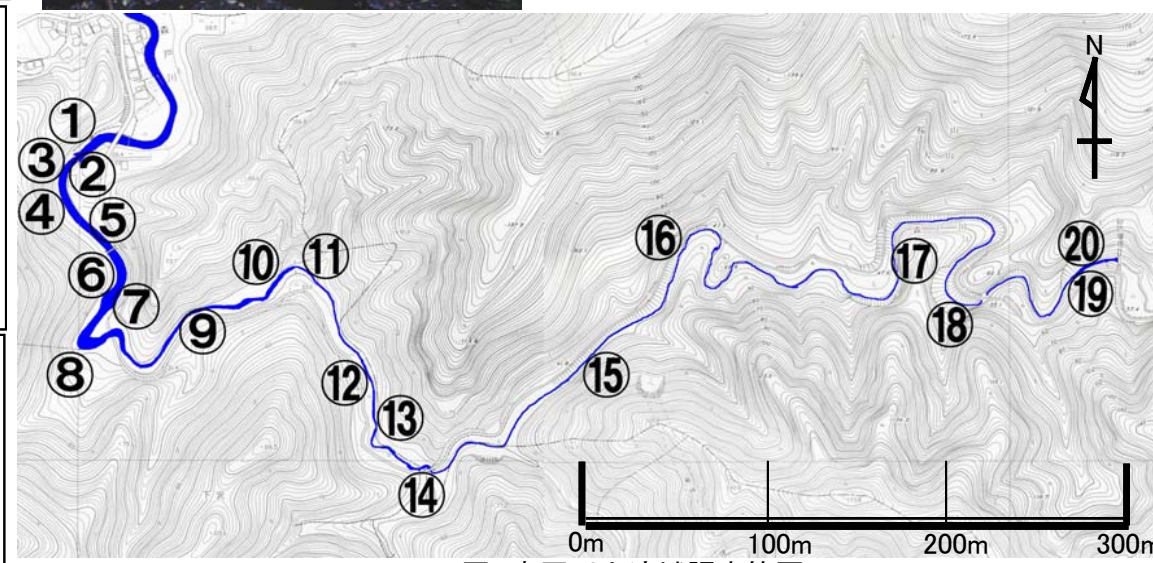


表 森戸川上流域調査範囲で確認された生物

分類	和名	学名	科	確認された地点	確認された場所の特徴	在来種か外来種の判別	体長	流域性の有無
爬虫類	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	ナミヘビ科	⑩	目認、ゴツゴツした岩場	在来種	約30cm	無
	ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	ナミヘビ科	⑩	目認、石が多く、水量が少ない	在来種	約25cm	無
両生類	ツチガエル	<i>Rana rugosa</i>	アカガエル科	⑧	石が多く、水量が少ない	在来種	2.8cm	無
	カエル類の幼生	不明	不明	ほぼ全域	様々な地点で確認	不明	3cm	不明
魚類	オイカワ	<i>Zacco platypus</i>	コイ科	③④	底に小石が堆積、水辺には植物はあまり見られない	外来種	3.8cm、5cm	無
	アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowski steindachneri</i>	コイ科	ほぼ全域	底に大小様々な石、水辺には植物はあまり見られない	在来種	4~9.8cm	無
	シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp. CB</i>	ハゼ科	②③④⑩⑫	底に小石が堆積、水辺には植物はあまり見られない	在来種	4~7.5 cm	有
甲殻類	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	サワガニ科	⑧⑩⑫	底に大小様々な石	在来種	2~3cm	無
	ヌカエビ	<i>Paratya compressa improvisa</i>	ヌカエビ科	ほぼ全域	底に小石が堆積、水辺には植物はあまり見られない	在来種	1.5~3cm	無
	モクズガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>	イワガニ科	⑧⑩	底に大小様々な石、倒木、岩の下	在来種	20cm、23cm	有
貝類	カワナナ	<i>Pleuroceridae</i>	カワナナ科	④	底に小石が堆積、水辺には植物はあまり見られない	在来種	3cm	無

注)表での流域性とは、生物の生活上で川のつながりを必要としているものをいう。同定は(中坊 2000)、(三宅 1982)を使用。

考察

今回の森戸川上流域調査では、中流域や下流域と比べ川幅が狭く、流量は少なくなり、木々などによる日射量の減少など、まさに源流といった景観が広がっていた。そして捕獲できた生物種の数も中流域や下流域に比べ大変少ないものになった。しかし今回の調査によって中流域、下流域で確認できた、生きるうえで川の流域を必要とするヨシノボリ類、モクズガニを捕獲することができ、森戸川の流域としてのつながりを確認することができた。

引用文献

中坊徹次, 2000. 日本産魚類検索 全種の同定第二版, 東海大学出版会.
 三宅貞祥, 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑(1), 保育社.
 鈴木博, 1987. 逗子における川・溜池の動物 逗子市史, 別編1, 自然編.
 斉藤和久・林公義, 1999. 森戸川(三浦半島)におけるヨシノボリ類の分布様式と個体数増減, 神奈川自然史資料.
 (Web1), 我が家の水辺・ヌカエビ. <http://homepage2.nifty.com/tokai-no-mizube/wagaya/nukaebi.html> 2004/10/22.

写真7 黄金橋付近
 地面、川底ともに砂利で、川の右岸には水がなく、草や木が生い茂っていた。川には、ヌカエビ、オタマジャクシ、アブラハヤ、ヨシノボリ類が多数生息していた。また、カワナナも確認された。



写真8 図⑫地点
 水量がかなり少なくなり、川底はほとんど岩肌であった。周りの風景は木々が鬱蒼としており日差しがあまり届かなく暗い。ヘビやツチガエルが生息し、水深の深い場所では、ヌカエビ、アブラハヤ、ヨシノボリ類等が見られた。



写真9 図⑫地点、砂防堰堤
 この調査において河口から上流までにおいて、川のつながりの最終地点であるが、この上流にも川が続いていた。堰堤の下は淀みになっており、シマヨシノボリやアブラハヤなどを捕獲することができた。

